

## 国内研修成果報告書

～買物公園から学ぶ今後の商店街のあり方～

研修期間：2026年2月1日（日）～3日（火）  
場所：北海道旭川市 旭川平和通買物公園  
研修人数：5人

現代福祉学部



## 【目次】

1. 前書き
2. 旭川平和通買物公園について
3. 活動内容
4. 気づき
5. 終わりに

### <前書き>

本研修では、旭川平和通買物公園の取り組みを現地で学び、イベントや歩きたくなるような空間作りの工夫を知ることで、八王子銀座通り商店街の活性化に応用できるヒントを得ることを目的とする。また、私が今回の国内研修に参加することになったきっかけは友人が国内研修に興味があると言っていたからだ。彼女は基礎ゼミコンペの際、八王子銀座通り商店街の活性化について研究しており、日本初の歩行者天国である旭川平和通買物公園はどのように人を呼び込み活性化しているのか他の友人らと共に現地へ出向くことにした。

### <旭川平和通買物公園について>

平和通買物公園の最大の特徴は、日本で初めての「恒久的歩行者専用道路」として整備された場であるということである。1972年に全国で初めて整備された商店街でありJR旭川駅から北へ1km続くメインストリートだ。また、通りにはベンチや植栽、イルミネーションや彫刻作品などが配置され、歩いているだけでも楽しい空間となっている。さらに、大道芸フェスティバルや音楽大行進、飲みマルシェなど、多くの人を呼び込むイベントも多数ある。冬季にはイルミネーションや氷彫刻世界大会など、北海道という地域特性を生かした取り組みも行われており一年中多くの人を呼び込んでいる。一方で、イベントを開催している時期としていない時期の人の数のギャップや昔とは違う商店街の在り方など、課題も多く抱えている。

### <活動内容>

今回私たちは飛行機を利用して旭川まで行ったのだが、昼過ぎに着き昼食を取ったりホテルへ行っているとすぐ時間が経ってしまい、1日目はほとんど移動で終わった。荷物を置いた後、私たちは明日インタビューをする予定の商店街を回ることにし、夜の平和通買物公園へ向かった。すると今までの商店街のイメージとは違ってとても開けた道が続いており、とても開放的だった。また、商店街の入り口には大きなツリーがあり、通りにはハートのオブジェやイルミネーションが多く明るい印象だった。私たちは通りにある店を見て回りながら商店街の端から端まで歩き、美味しそうなパン

屋さんや、北海道ならではのジンギスカンのお店など多く並んでいるのを見た。また、商店街の1番奥にある「まちなかぶんか小屋」という店舗は特に興味深く、外から見ただけだが、そのお店の中でプレゼンをしており15名ほどの人たちがその話を聞いていた。私たちも中に入ってその話を聞いてみたかったのだが、何も知らない人が急に途中参加で入って良いものか分からず、外から少し見るだけにして、その日はホテルへ帰った。ホテルに帰ってからは次の日どんなことを取材するのかみんなで話し合ったり、まちなかぶんか小屋とは何をしているところなのか調べた。するとそこは、地域の中にある小さな交流スペースで、ほぼ毎日展示会や講座、ワークショップなどを開いているということが分かった。さらに、ヨガやギター教室など誰でも気軽に参加できるコミュニティの場を提供しており、調べていくうちにより興味が湧いてきた。次の日に私たちも行きたくなかったのだが、ちょうど定休日で行って話を聞くことすらできず、とても残念だった。しかし、2日目は旭川平和通商店街復興組合の事務局長の方にインタビューする予定だったため、そのお店のことも少し聞いてみようということになり、何を取材するかたくさん話し合った。そして北海道研修2日目、私たちは事務局長の方へのインタビューは17時からだったため、昨夜見て気になっていたパン屋「どんぐり」へ行きそこで朝食を食べた。そのパン屋は最近できた新しいところで、置いている種類もとても多く、どれを食べるかとても迷った。しかし、パン屋の外の看板にも大きく宣伝されていた北海道を代表する「ちくわパン」というのが気になり、1番にそれを取った。ちくわパンがどういうものなのか全く知らなかったため、ただパンの間にちくわが挟まっているだけだろうと思っていたが、ちくわの穴にツナマヨネーズなどの具材を詰めて焼いた惣菜パンであり、とてもボリュームで美味しかった。朝食を食べた後は、旭川駅周辺を散策し北海道発祥のセイコーマートに行ったりもした。そんなことをしているとあっという間にインタビューをする17時になり、私たちは急いで約束の場へと向かった。1時間ほどお話を聞き、人を呼び込むためにどのような工夫をしているのか、非組合と組合員の関係は何なのか、どんなことが今の課題なのかなどたくさん質問した。すると、人を呼び込むための工夫に特に手を入れていると感じ、大道芸フェスティバルや、地域の学生による音楽大行進、アフターコンサート、フリマ、食べ歩き・飲みマルシェなど老若男女問わず楽しめるイベントが多数あった。さらに、どのイベントもとても人気だそうで、中でも音楽大行進は商店街の広い道幅が埋まってしまうほど多くの人があるそう。また、食べ歩き・飲みマルシェでは3,200円で商店街にあるほとんどの飲食店に入れるとのことで、普段行きにくいお店にも気軽に入れるため、お客さんにお店を知ってもらう良いきっかけ作りになっているそう。しかしその一方で、イベント止まりになってしまうという課題も抱えている。イベントを開催している期間は道幅いっぱいになる程多くのお客さんが来場するのだが、開催していない期間は人が少なく、そのギャップに悩んでいるとのことだった。さらに、昔は仕事帰りに買い物をして帰る商店街

であったのに対し、今はおしゃれなカフェや百貨店など昔とは見た目が少し違うため批判の声も多少あるそう。しかし、そのおかげで若い人や多くの人を呼びこめているため、昔ながらの商店街と今の商店街、どちらを残していくか難しいと感じた。インタビューを通して、商店街を活性化させるには人を呼び込む面白そうなイベントを積極的に開催していくことも大事だが、昔の商店街を知っている人の意見も取り入れつつ活性化させていくことが重要だと感じた。

#### <気づき>

今回の北海道研修を通して、商店街の活性化には単に人を呼び込むだけでは不十分であることに気づいた。その地域の歴史や文化、住民や訪問者のニーズを理解し、それらを踏まえた施策を考えることが重要だと感じた。また、旭川平和通買物公園で最も印象的だったのは開放的で明るい見た目をした商店街ということだ。通りを自由に歩き回れるオープンスペースであり、ベンチや植物、イルミネーションや彫像など歩いているだけで楽しい工夫が多くされていた。イベントだけでなく視覚的にも楽しむことができる工夫が多くされているのが八王子銀座通り商店街との大きな違いなのではないかと感じた。

#### <終わりに>

この研修で得た学びと経験は、八王子銀座通り商店街を活性化させる上でとても役立つと思う。また、旭川平和通買物公園の取り組みを通して、どの商店街も共通して抱える課題や悩みがあることに気づき、自分自身が普段考えていることや問題意識と重ね合わせながら学ぶことができた。個人的には、目で見て感じる「空間の楽しさ」と、人と人をつなぐ「コミュニティづくり」の両方が商店街の魅力向上に欠かせない要素であることに気づけたことが大きな学びだった。また、実際に現地の方に話を聞くことで、資料だけでは得られないリアルな課題感や工夫の背景を知ることができ、今後八王子銀座通り商店街に関わる際の参考になる具体的な視点を得られた。